

# 今、何の病気が流行しているか！

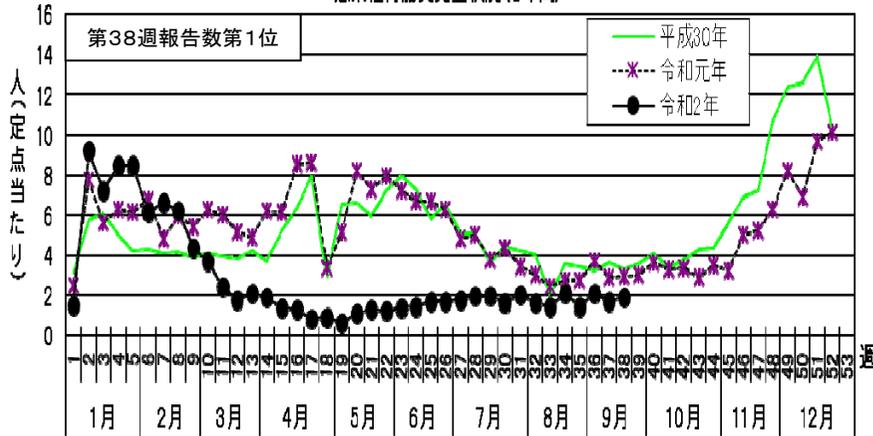
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月14日（月）～令和2年9月20日（日）〔令和2年第38週〕の感染症発生状況

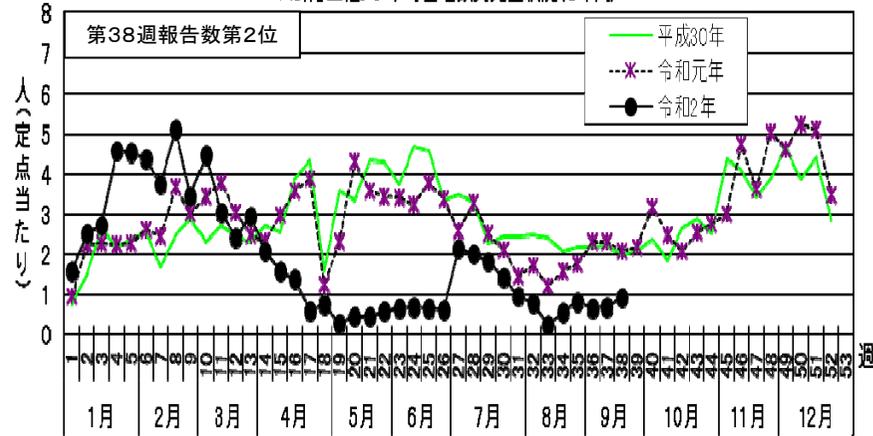
第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（1.68人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.92人と前週（0.70人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.65人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

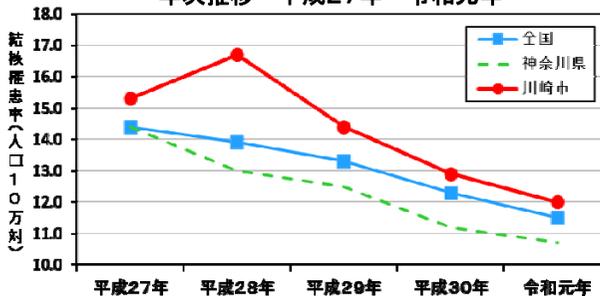


## 結核予防週間～結核健診を受けましょう！～

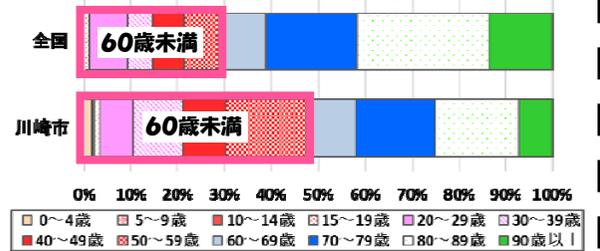
令和2年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

結核の患者数及び罹患率は年々減少しているものの、我が国では未だに毎年約15,000人が患者として登録され、約2,000人が命を落としています。  
 川崎市では、令和元年の結核罹患率は12.0（人口10万対）と前年（12.9）と比べて減少しているものの、全国（11.5）よりもやや高く、特に60歳未満の比較的若い世代が高い状況でした。早期発見・早期治療のためにも結核健診を受けることが重要です。また、BCGワクチンは乳幼児における結核性髄膜炎など重症結核の予防に有効です。接種対象者のお子さんはできるだけ早く接種を済ませましょう。

全国、神奈川県及び川崎市における結核罹患率の年次推移ー平成27年～令和元年ー



全国及び川崎市における結核年齢階別発生状況(令和元年)



### BCGワクチンの定期予防接種について

【定期予防接種の対象者】  
 生後1歳に至るまでのお子さん  
 ※標準的な接種期間は「生後5月に達した時から生後8月に達するまでの間」です。  
 【受けられる場所】  
 川崎市予防接種個別協力医療機関